

平成22年度宮崎県青少年問題協議会議事録

1 開催日時

平成23年3月14日（月） 14:00～15:30

2 開催場所

県庁附属棟201号室

3 出席者

河野俊嗣会長（知事）、有園正博委員、後藤幾子委員、後藤祥子委員、
谷口由美繪委員、外山與子委員、中道宣男委員、中元智恵委員、
西山昌彦委員、宮下美樹子委員
（欠席）齋元幸一委員、力武嘉壽子委員

4 次第

（1）開会及び定足数確認

（2）会長（知事）あいさつ

（3）委員紹介

（4）副会長選出

副会長に谷口委員を選出した。

（5）議事

<テーマ>社会生活を円滑に営む上で困難を抱える子ども・若者への支援について

①資料説明

②意見交換

5 意見交換の概要

- ひきこもりというどうしても甘えであるとか怠けであるとか決めつけた見方をするが、ひきこもりの背景には発達障がいなどが疑われるという現実をもう少し認識して、相談機関を紹介するとかそういった手法が大事である。
- 様々な相談窓口があって、それを積極的に広報し、相談できるようにするシステムと、子どもも親も孤立させないネットワーク、そして子どもも親もしっかりと自立していく取組という、複合的な取組が必要である。
- 大人の方で子どもたちがもっと飛び出してきていろいろな形で話せるような地域的な機会をつくる必要がある。
- 学校に行けない子どものエネルギーはすごく落ち込んでいるので、まずは家族支援等から始めて、子どもをそれに巻き込んでいく。子どもが孤立してしまうと相談にならないので、まずは長期化しないように早め早めに対策を取っていく必要がある。

- その子どもがどうしたら今一歩動けるかということからスタートして、いくつか積み重ねて大きい目標に到達するという手法が必要である。
- ひきこもりの若者はなかなか外出しないので、インターネットを使ったり、コンビニ等にパンフレットを置いたりするなど、様々な民間機関等との連携を図りながら必要な情報を提供していく必要がある。
- 思春期を迎えた子どもがつらい思いをして大人になっていく段階の中で、思春期特有の課題というのがその後の子どもの育ちや社会に出ていくときに大きく関わっている。思春期の男の子、女の子の子にもある課題について、当たり前のこととして政策に取り入れていくことが大事である。
- 例えば、家族や周囲の人が創作活動を勧めるなど、きっかけを与えることができれば、それで評価されて自信を得て、またそこからうまくコミュニケーションが取れるようになり、社会に出ていくことができるのではないか。